

SPring-8 利用者懇談会 第一期研究会 活動総括

SPring-8 利用者懇談会 利用促進委員会

まず、研究会会合の開催については、利用者懇談会が推奨したこともあるが、活動の活性化を図るという意図が伝わったと考えられ、組織改革前に比べて開催数が激増した。高分子や軟X線を始めとする一部分野では研究会が合同開催され、最新の技術・情報の交換が行われたが、研究分野を越えた交流の機会は全体的にまだ少ないようである。この点に関しては、利用促進委員会がリードしていく役割を担うべきであり、今後の課題である。

対外的な活動としては、国際シンポジウム開催や学会でのセッションの企画、国際誌への特集号の掲載など、活発な活動をしている研究会が見られた。

また、研究分野の動向、研究会が目指すサイエンスの方向、ビームラインの現状を議論検討し、それがBL担当者の増員や新ビームライン建設につながったケースがある。特に高分子分野の産学コンソーシアムの設立は特筆すべきである。ここにはJASRI部門長を始めとする施設側の並々ならぬ努力があったと思われるが、不断の研究会活動がベースとなり結実した成功例であると言える。

研究会が核となった競争的資金の予算申請も当初掲げられた目標の一つであった。いくつかの研究会で予算申請はされたようであるが、まだそのような動きは活発とは言えない。

以上のように、個々の研究会により活動状況は様々であるが、SPring-8におけるサイエンスを意識した研究会の活動活性化という第一の目標は概ね達成されたと言って良いと思われる。

しかしながら、研究会のホームページの整備を例に挙げれば、研究会の情報発信はまだまだ不十分であると言わざるを得ない。異分野との交流は新しいサイエンスを拓くきっかけになることは言うまでもなく、異分野のユーザーおよび新規ユーザーに広く活動をアピールすることは大変重要であると考えられる。第二期研究会には今まで以上に情報発信に力を入れていただき、活発な研究会活動を展開されることを期待する。

(平成 20 年 10 月 30 日)